

平成26年度 SSR 産学戦略的研究フォーラム
「大規模複雑な自己適応システムの適応進化
制御手法に関する調査研究」
第8回ミーティング

電気通信大学 田原 康之
2015/2/26

議事次第

1. 論文調査進捗報告

担当者

2. 意見交換

出席者全員

事例調査の進め方 (メールにて周知済み)

- ▶ IPA 発行の2部の教訓集

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20140513.html> (Google ドライブ内の「事例調査」フォルダにも配置) に記載の各教訓に対し、次の観点で分担して調査を行う

1. 上記フォルダ内の「事例一覧」ファイルと「教訓+事例.pdf」ファイルから調査対象を選定

事例調査の進め方 (メールにて周知済み)

2. 各教訓の詳細を、できれば自身の業務や研究分野に照らして把握
3. 可能であれば、自己適応システム技術の適用可能性を検討

論文調査の進め方 (メールにて周知済み)

▶ 次の2つの方向で進める

1. 調査担当者自身の研究への発展を目指す方向

- したがって、自己適応システムの観点にはこだわらなくても良いものとする

2. 上記事例調査の結果を踏まえ、教訓への活用により 現実の問題事例の解決を目指す方向

- ただし事例調査の結果を待つ時間は少ないので、できれば自身で事例調査と論文調査を同時に進める

論文調査の進め方 (メールにて周知済み)

▶ 2. では、具体的には

- 調査対象論文のアプリケーション分野に近い事例を選択し、
- 論文の手法、または関連する従来研究の手法により、事例の障害にどのように対応できるか、の観点で検討し
- スライドにまとめる
- さらに、事例への適用の観点が皆様個人ごとに異なると考え、論文の表のご担当者に関係なく、重複して調査されても可

論文調査の進め方（例）

▶ 冗長構成の教訓の例

- 教訓9:二重化構成において、機能追加時に追加したデータ領域の同期設定漏れ
- 教訓T7:二重化構成において、稼動系ノードのパラメータ変更の待機系への反映漏れ

- ## ▶ 一般に MAPE-K ループ利用の手法において、いずれか1系統の変更発生を Monitor により検知し、APE で別系統にも変更を反映する手法の適用が考えられる